



アジア福音同盟 (AEA)・女性大会 (2021年1月22～23日、オンラインで開催)

## 第七回日本伝道会議のテーマ決まる！

2023年9月19日(火)から22日(金)まで、東海地域の長良川国際会議場を主会場として、オンラインと併用で行われる第7回日本伝道会議(JCE7)のテーマが決まりました。

「見よ、わたしは新しいことを行う。今、それが芽生えている。あなたがたは、それを知らないのか。必ず、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける。」イザヤ書 43 章 19 節

「その後、私は見た。すると見よ。すべての国民、部族、民族、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆が御座の前と子羊の前に立ち、白い衣を身にまとい、手になつめ椰子の枝を持っていた。彼らは大声で叫んだ。『救いは、御座に着いておられる私たちの神と、子羊にある。』」ヨハネの黙示録 7 章 9-10 節

これまで6回にわたって開催されてきた日本伝道会議は、聖書を「信仰と生活の唯一の規範となる神のことば」と信じる福音的な教会が、主イエス・キリストの宣教命令に、互いに力を合わせて従っていくことを目的として開催されてきました。そしてJCE7は、前回のJCE6において提示された「リ・ビジョン」を構築する7年間の準備期間をもち、日本の宣教の方向性を新たに打ち出す使命を担っておりました。

しかしながら、2019年末からコロナ禍に見舞われた社会の生活環境や様式は激変し、キリスト教会もまた、教会のあり方や宣教の方策を含め本質的な事柄への問いかけが求められています。ある意味「リ・ビジョン」よりも、むしろ「リセット」という語を意識させられる状況に私たちは生きているのです。

もちろん、私たちキリスト者にとって、それ

は神による摂理的な機会と思わされるものであり、また神の御旨を覚え、皆が御前にひれ伏して神に聞き、上からの方向性を教えていただく大切な時代にあることを意味しています。そこで、今回のJCE7のテーマは、これまでのプロジェクトの働きを評価しながらも、神による全く新たな可能性、いわゆるコペルニクス的転回(発想法を根本的に変えることによって、物事の新しい局面が開かれること)を生み出すものとなることを期待し、プログラム局として以下のテーマを提案するものです。



中西雅裕  
JCE7 プログラム局長  
日本ホーリネス教団

### 「おわり」から「はじめる」宣教協力

私たちにとっての「おわり」とは、第一に、今の教会が直面している行き詰まりに等しい状況、つまり今やらなければ後がない状況としての「正念場(おわり)」であり、第二は、神が計画しておられる教会の完成のビジョンとしての「ゴール(おわり)」から考えること、そして第三に、開催地域である「尾張(おわり)」、それは各自の地域の現状から出発するという三重の意味をもっています。

そして「はじめる」とは、第一に、日本の宣教の歴史を振り返り、日本の教会に根付いている教会の習慣や文化などを聖書から見直し、捨てるべきものを捨て、終わらせるものを終わらせることを「はじめる」機会とします。第二に、

(Page 8 に続く)

### 目次

巻頭言	1
宣教研究部門担当者会議 宣教フォーラム福島 2021	2
異文化宣教ネットワーク	3
流れのほとり	4
アジア福音同盟女性大会	5
牧師の本棚「砕かれた葉」 信教の自由セミナー	6
青年委員会	7
JEA アップデート 総務局より	8

## 宣教研究部門担当者会議の報告

### 社会に希望を与える教会 ～コロナ禍における教会の再形成～

飯田勝彦 宣教委員  
宣教研究部門  
日本イエス・キリスト教団

「さあ今、あなたがたは、今日から後のことをよく考えよ。・・・一主のことばさあ、あなたがたは今日から後のことをよく考えよ。第九の月の二十四日、主の神殿の基が据えられた日から後のことをよく考えよ。・・・ぶどうの木、いちじくの木、ざくろの木、オリーブの木は、まだ実を結ばないのか。今日から後、わたしは祝福する。」 ハガイ書 2 章 15～19 節

5月10日(月)13時より JEA 宣教委員会・宣教研究部門担当者会議がオンラインで行われ、24 団体から 35 名が参加した。今回のテーマは「社会に希望を与える教会～コロナ禍における教会の再形成～」であった。

最初に「コロナ禍のキリスト教会への影響の調査」アンケート中間報告が宣教研究部門の福井誠師よりあった。1984 教会にアンケートを送り 253 教会より回答を得たとのことだった。礼拝や各集会、宣教、牧会など、コロナ禍にあって課題となったもの、チャンスとなったものなど、様々な回答があった。その中で新型コロナウイルス感染を「機会」と捉えるか「疫病」として捉えるかによって、混迷する教会か、方向転換や進む方向に確信をもつ教会かに分かれた。プログラムの関わりから個人的関わり、教職中心から信徒中心など、コロナ禍にあって教会の本質的な事柄を考え、向き合う時となっているとの分析がなされた。

アンケート分析を受けて、宣教委員長の中西雅裕師より講演があった。上記のハガイ書が開かれ、コロナ禍にあって「主は『よく考えよ』と言われ、そして私たちに祝福を約束しておら

れる」と語られた。今後、教会は礼拝も、交わりも、宣教も対面とオンラインの併用が求められる。また、家族への伝道から、キリスト者としての生き方と教会のあり方の見直しが必要になる。具体的には①家庭礼拝による家族への伝道、②夫婦の関係とクリスチャンホームの見直し、③日常生活の変化、④教会のあり方の変化など、である。

中西師は最後に次のように語った。「神は私たちに命じておられる。『よく考えよ』と。直ぐに答えは出ないかも知れない。答えは見つからないかも知れない。あるいは、直ぐに答えを出してはいけないかも知れない。一緒に考えていきたい。それぞれの背景が違って皆、同じコロナ禍の中にいる。コロナ禍での牧会、伝道である。情報を共有し一緒に悩みよく考えていきたい。神を第一とし御心を求めようとする私たちに、そして教会に、神様は宣言して下さっておられるのではないかと。『今日から後、わたしは祝福する』と。共にこの方を信頼し、協力し、前進していく私たちとされよう。」

講演を受けて担当理事の三浦春壽師より次のレスポンスがあった。コロナ禍にあって①悔い改めをもって、神と自分との関係を取り戻させていただく、②人の心に寄り添う生き方をする、③みことばの学びを小グループで繰り返し行い、互いに祈り合うことが必要になってくる。

その後、グループに分かれ、各グループでそれぞれ意見交換を行った。今後も教会形成について一緒に考えて行くことを確認し会議を終えた。

## 宣教フォーラム・福島 2021 にご参加を！

永井敏夫 宣教委員  
異文化宣教ネットワーク部門  
単立 J・クレイハウス

今年度の宣教フォーラムは、11月23日(火)と24日(水)に福島で「これまでのフクシマと、これから」をテーマに開催されようとしている。2013年に福島で開催された宣教フォーラムに出席された方々もおられることだろう。前回は、「フクシマと生きる宣教」というテーマの下、県内の方々の証に耳を傾け、5つの分科会で、被災された女性たち、教会ネットワーク、ユースの活動などについて知り、「フクシマの今を考える」というタイトルでパネルディスカッションが行われた。

現在、11月の開催に向けて協議を重ねているが、その中で東北の教会としてのぎりぎり感、震災後10年間の歩みを経て、見えている教会格差、原発被害と人々の心の痛みと分断など、会合では福島の牧師方から様々な思いが吐露されている。ある方は「牧師は決断と主の導きのはざまにある」と語られた。

世界中で新型コロナウイルス蔓延による不安感、様々な格差や孤独感が人々の上に濃い霧のように覆っている。今、そして未来が見えにくく分からない中、私たちはキリストを信じる者

として生かされている。キリストは、福島だけでなく日本の、そして世界のもともとの姿を、今の姿を、そしてこれからの社会に生きる者たちの姿を知っておられる。

計画通りにいかない、いや計画さえ立てにくい状況の中で、福島だけでなく日本中で牧師はみことばを語っている。「教会の本来の在り方とは何なのか、今まで見てきたもの、今見ているものから、次に何を神は見せようとしておられるのか、いや見るように促しておられるのだろうか、今までの思考、方策から全く新たな思考と方策へと変わっていく糸口は何なのか」を探る宣教フォーラムが福島から始まることを心から願っている。さらに、今回の宣教フォーラムが一過性の企画ではなく、連続する動きが見える企画となることを願い、私も企画メンバーの一人として取り組みたい。

今回のフォーラムで一番大切なことは、福島の牧師、信徒の方々の思いをしっかりと受け止め、共に祈り合う姿だと私は思う。福島県には福島県キリスト教連絡会(FCC)があるが、こ

## 異文化宣教ネットワーク部門の取り組み

永井敏夫 宣教委員  
異文化宣教ネットワーク部門  
単立 J・クレイハウス

### 「在外日本語教会」との連携

永井敏夫 J・クレイハウス

1. アジア・オセアニア日本語教会牧師同士の交わり、分かち合いの機会を願い、ほぼ隔月でズームトークを呼びかけています。かつてアジア・オセアニアで宣教していた方々や世界宣教に重荷のある牧師方も参加してくださっています。互いに知り合い、分かち合いに耳を傾け、そして祈り合うつながりができていくことを願い、これからもズームトークを呼びかけたいと思います。

2. 入管収容者の方々を覚えて祈るセッションをズームで行っています。入管に収容されている方々と面会している数名の牧師方から、現状、祈りの課題をお聞きしています。入管法の改正や入管の実態などについて、日本の教会が目を開き、とりなしの祈りの手を挙げていくひとつの機会になることを願い、これからも呼びかけていきたいと思っています。

これら二つのセッションに参加希望の方は j.clayhouse@gmail.com (永井敏夫) までお知らせください。

続いて日本におられる外国人たちへの意識調査や実際の取り組みが各教派・教団でなされつつあります。今回は基督兄弟団と日本同盟基督教団の様子をお知らせします。

### 「異文化宣教への取り組み」

佐藤恵一・基督兄弟団

私たちの教団の海外宣教委員会では、300万人近い在日外国人の方々への宣教の働きを考えるために「在日外国人宣教セミナー」を計画し、4月29日にZoomでセミナーを開催しました。講師はJEA宣教委員会のメンバーの永井敏夫先生で、企画の段階から加わっていただきました。私たちは先ず教団諸教会の在日外国人への関心の度合いを知るためにアンケートをとり、結果を整理しました。その結果の中から、これからの私たちの歩みにつながる気づきが多々ありました。

永井先生の発題の内容は①各地の入国管理センターに収容されている人々の実情とクリスチャンの関わりについて。②日本に滞在している40万人のベトナム人への宣教の働きについて。③政治的緊張が高まっているミャンマーを覚え、祈りの手を挙げること（在日のミャンマーの人々とミャンマーにいる邦人の

存在）等でした。

発題後にグループに分かれ、今回のセミナーを通して受けた主の導き、一人ひとりに与えられた様々な気づきとこれからの可能性を分かち合い、祈りました。教会全体の働きとして重荷を負うこと、そのために情報を共有すること、個人としては外国人たちにとっての良き隣人となること等の多くの積極的な感想が残されました。それぞれに与えられた思いを実際の行動に移すことを励まし合うために「第二回在日外国人セミナー」を計画しています。お祈りください。

※追記：アンケートの内容と結果についてご興味のある教会、またアンケートの実施を考慮しておられる場合には、佐藤までお知らせください。協力いたします。

### 「在留外国人の方たちへの取り組みについて」

原山いずみ・日本同盟基督教団

私たちの教団では以前より、在留外国人の方たちのため、各教会における協力（礼拝堂を使っただけ等）を行ってききましたが、教団としてはそれらの取り組みを祈りに覚えるにとどまっていた。しかし昨今、日本においても外国籍の方たちとの関わりが増えている状況を受けとめ、教団（国外宣教委員会）としても具体的な取り組みが必要であると、以下のような取り組みを始めました。

1. 在留外国人宣教に重荷のある方たちの集い（オンライン）数か月に一回
2. 同盟の教会に集う方との日本語で聖書を読む会（オンライン）毎月一回
3. 教団機関紙における発信（各教会の取り組みの紹介等）随時

現時点では各教会を励まし、つなぐ働きを委員会が担い、祈りと情報交換の場が生まれることを目指しています。そして今後は、各教会に与えられている国を越えた神の家族の交わりが深まり、互いの国のための祈り、宣教へとつながっていくことを願っています。将来は私たちの教会から、母国へ宣教師として戻っていく方が起こされるかもしれません。また日本に住む彼らは日本のためにも祈ってくれています。あらゆる国、民族の方々とともに、主の宣教のわざに前進したいと思います。

れは震災直後に数人の牧師方の祈りから始まったと聞いている。どうすればよいか分からない中、とにかく顔を合わせ、祈る人々を主は見捨てられない。教会ネットワークは岩手、宮城をはじめ日本各地に誕生し、今は全キ災のように諸ネットワークを繋ぐ大きなネットワークも存在している。宣教フォーラム・福島では、小さくても今、芽生えつつある新たな試みや動き、さらに人と人の繋がりから生み出されつつある新たな動きなどが紹介されることを願っている。

私の携帯にはある賛美が録音されている。2017年に参加し

たFCCの会合の最初に参加者一同で歌った「キリストには代えられません」だ。FCCの会合に顔を出す度に、震災復興後も肅々とした歩みを続けている牧師方の姿に励ましを受ける。FCCに集う誰もが、正直かつ素直に主の前に出て、そして仲間たちの前で思いを語っている。そのただ中にいつも主がおられることを思う。世の楽しみや誉れを追い求める社会にあって、「世の何物もキリストには代えられません」と私たちは改めて宣言したい。その歩みだしとなる宣教フォーラムになることを私は心から願っている。

## 第5回かたりばオンラインに参加して

矢島依枝 女性委員  
JECA 高森キリスト教会

「すべての子どもに家庭を」とのタイトルで、ゲストにロング朋子さん（一般社団法人ベアホープ設立者）を迎え、全国から52名が集いました。現在ベアホープを通じて180人以上の子どもたちが、養子縁組により新しい家庭に迎えられています。「ベア」はbare(はだかんぼうの、bear 重荷を担いあう)から取った言葉とのこと。

ベアホープの活動内容は「妊娠葛藤相談窓口」、「養子縁組斡旋事業」、「政策提言（聖書的にこの国がどうあるべきかを提言するための活動）」です。三番目の活動には、多くの参加者の方々が感銘を受けました。後半のグループタイムでは、主にある恵みの分かち合いがもたれました。中には実際に養子を現在迎えている方、これから養子縁組も視野に入れ祈っておられる方、親子の支援事業を立ち上げたいと願っている方もおられました。

養子を迎える上で大切なことは、親の都合ではなく子どものためのものであることの認識をもつことである、と深く教えられ、教会、個人として何か協力できることは何かを考える機会となりました。

## 【ベアホープのための祈禱課題】

1. 様々なニーズのある子どもを受託するクリスチャン家庭が増えるように。
2. ベアホープのワーカー達とその家族の信仰と心身の健康が守られるように。
3. クリスチャン養親子が日本の社会において良い影響力をもつように。
4. ベアホープが日本において信仰に基づく事業者として必要な働きを継続できるように。

JEA 女性委員会主催

第5回 かたりば オンライン

毎回さまざまな分野で活躍されているゲストをお迎えしてお話を伺っています。オンラインでの開催のため、全国どこからでも参加できます。コロナ禍の現在ですが、ひととき皆で集まって語り合いたいです。主にある女性として共に学び、分かち合い、祈り、つながりましょう!

日時：2021年4月15日(木)  
13:30~15:00

講師：ロング朋子さん  
「すべての子どもに家庭を」

講師プロフィール： 北埼玉に居る女性たちの支援と特別養子縁組を行う一般社団法人ベアホープを設立。現在までに180人以上の子どもたちが新しい家庭に迎えられています。ちょっと珍しい4代目クリスチャン。現在は夫と子どもを含む4人の子どものために日々一石二鳥、種々な活動を通して行われています。

## 第6回「かたりば」オンラインのお知らせ

第6回 かたりば オンライン

毎回さまざまな分野で活躍されているゲストをお迎えしてお話を伺っています。オンラインでの開催のため、全国どこからでも参加できます。コロナ禍の現在ですが、ひととき皆で集まって語り合いたいです。主にある女性として共に学び、分かち合い、祈り、つながりましょう!

日時：2021年7月15日(木)  
13:30~15:30

講師：栗原 加代美さん  
(NPO 法人 女性・人権支援センターステップ 理事長)  
「笑顔あふれる夫婦関係」

日時：2021年7月15日(木) 13:30~15:30  
(参加者の多くの要望により30分延長します)

ゲスト：栗原加代美さん

(NPO 法人・女性人権支援センターステップ理事長)

テーマ：「笑顔あふれる夫婦関係」

申し込み等、詳しくは JEA ホームページをご覧ください。一人一人の尊厳が守られ、共感する者としてともに生きる豊かな交わりに、どうぞご参加ください。

\*\*\*\*\*

コロナ禍の中、Zoom によるオンラインで再開された「かたりば」。回を重ねるごとに参加の輪が広がっています。日本中から年齢も立場も多様な女性たちが画面上で一つとなり、主の召しを受け、様々な分野で悪戦苦闘なさっている姉妹方のお話を伺い、グループタイムではそれぞれが思いの丈を自由に語り合っています。もっと話を聞きたい!話したい!との要望を受けて30分延長します。クリックすれば繋がります。女性たちよ、集まろう!(野寺恵美・女性委員長)

## 新委員自己紹介

岩上真歩子・日本ホーリネス教団

4月から、アジア福音同盟(AEA)女性委員会担当として、女性委員会に加わりました。AEA女性委員会では、アジアにおけるクリスチャン女性としての使命と役割について活発な議論と働きが展開されています。AEA女性委員会の働きをJEA女性委員会に報告し、委員の皆様とご相談しながら、主によって与えられている働きを全うさせて頂きたいと思っております。お祈りに覚えて頂けますならば幸いです。よろしくお願いたします。

## アジア福音同盟 (AEA) ・女性大会報告

宗形友子 女性委員  
流山福音自由教会

21年1月22日(金)と23日(土)にアジア福音同盟(AEA)女性大会が開催されました。2日にわたるカンファレンスに、日本から女性委員2名を含め8名が代表として参加しました。目的は、①アジアの女性クリスチャンリーダーを励まし、リーダーシップを向上させること、②聖書的に物事を考える人材を育てること、③宣教と交わりを深めるため互いにつながることを3つでした。

賛美、聖書の説き明かし、女性のリーダーシップについてのパネルディスカッション、コロナ禍における精神的・情緒的健康について、対立における解決について、今の状況にある神と自分についての各講演があり、小グループでの分かち合いの時間も設けられました。

今回はオンライン会議ということで、日本にいながら、アジア各国の主にある姉妹方とつながりをもつことができ、主のお計らいに感謝しました。(流山福音自由教会・宗形友子)

\*\*\*\*\*

アジア各国の福音的な女性リーダーたちがこのようにオンラインで顔を合わせて集まり、優れたリーダーの専門分野から学ぶことができ、とても有意義な恵みの時でした。教会外で起こっているトレンドから学び、教会にどのように取り入れていくことができるか提案して下さったことも、刺激的で興味深かったです。

女性リーダーであることのチャレンジなども、正直に謙遜に分かち合われてとても感謝でした。女性という特性から学ぶ機会には、男性牧会者が多い中ではほとんど触れられることがないことなので、とても新鮮でした。

人間関係の衝突についても正直な分かち合いがなされていて、万国共通の問題に、みことばによる愛と忍耐とお委ねすることの必要性も改めて教えられました。コントロールできないことは諦める、よく寝る、深呼吸をする、心配する時間に時間制限を設ける、見方を変えるなど、とても具体的で実用的な話も多くあり感謝でした。

韓国の先生らしいパワフルなメッセージと祈りの時間も祝福されました。日本の大学で教えておられる方もおられ、知らないだけで多くの女性が身近なところで活躍して用いられていることを知ることができたことも感謝です。

1日目には小グループで分かち合う時間もあり、参加者と少し知り合えたことも良かったです。この直後にミャンマーの問題も起こり、より身近に祈らせていただくことができるようになりました。(夙川聖書教会・秦まどか)

\*\*\*\*\*

2日間にわたり「学べる事」が心身霊共に、最大のリフレッシュとなった。私は、日頃から学ぶことに枯渇しているようで、



育児・家事・教会の奉仕等から暫し解放され、何か研修のような、机に座って落ち着いて、教授の先生から講義を受けたいという願いがあるのだと気付かされた。この私の霊的必要が満たされた時、カンファレンスに参加後、心から主の平安や喜びに満たされた。

一番霊的に心に残っている事は、「神・コロナそして私」というタイトルでカンファレンスの最後を締めくくられた、アジア福音同盟女性委員長のキム・ヨンヒ先生(韓国福音同盟女性委員)の説教でした。その時の話し方や表情から醸し出される、霊的な静けさの中の奥深さ、奥強さから信仰者の姿勢を学ばせて頂いた。魂に迫る説教であった。(日本ホーリネス教団びわこキリスト教会・広瀬希保)

\*\*\*\*\*

AEA女性大会を振り返る時、画面を通して手を振り、祈り合った先生方のお顔を今でも覚えています。国も、仕える環境も異なりますが、主にある姉妹として、一つとなる経験をさせていただきました。

私は、1日目のルツ記からのデボーションでのメッセージが心に残り、今の生活の中でも大きな励みになっています。女性という立場で、しかもナオミの苦しみや闘いを今のコロナ禍、伝道の難しさや家庭での闘いなどと重ね合わせて話されていました。「今こそ、忍耐、希望という信仰を働かせる時です！」その語りかけを聞きながら、コロナ禍での奉仕の葛藤、教会や伝道での変化において、すぐに不安やため息が出てしまう自分の姿を思いました。

また家庭で、妻として、母として、自分はこんなにも忍耐がないのか?と思わされることが多い中、ナオミやルツが信仰をもって、試練を生きた姿に胸が熱くなりました。「今こそ！」本当の意味で、信仰に生きるそのような時だとするのなら、もっと意味のある時となる、メッセージの後半には、笑顔の私がいきました。(インマヌエル下関キリスト教会・久芳いずみ)

## 牧師の本棚

『砕かれた葉：アメリカ人が日本で  
見つけた芸術・生活・信仰』ニューカーク・マツト 神学委員  
キリスト聖書神学校校長

(ロジャー・W・ラウザー、いのちのことば社、2021年)

聖書の学術的研究を行っている教授として、私が読む本のほとんどは学術的なものです。ほとんどの場合、それらは、聖書箇所、文法、歴史、神学にまつわる問題を扱っています。学生にもそのような本を課題として与えています。教会に仕え、力と確信をもって福音を宣べ伝えるためには、聖書の全体的な物語や教理を明確に理解し、そのメッセージを適切に解釈するために必要なツールをもっていなければなりません。

同時に、聖書のメッセージを私たちの文脈に適用するためには、創造性と想像力も必要です。イエス・キリストの福音は決して変わることはない美しい真理ですが、教会がこの良い知らせを宣べ伝えるべき文脈は多様で、常に変化しています。だからこそ、聖書から目を離して、周りの文化を吟味し、聖書の希望と救いのメッセージが、その文化によって形成された人々とのように関係しているのかを示す必要があるのです。ロジャー・ラウザー氏の著書『砕かれた葉』は、この点で非常に優れています。

ロジャー氏は10の短い章から日本文化の10の異なる側面を取り上げ、それぞれのケースで、傷や苦しみから美と癒しが生まれる様子を強調しています。美味しいお茶を作るために砕かれる葉、美しい音楽を生み出す琴の不協和音の音階など、日本の文化には、壊れたものが美を生み、苦しんだものが癒され

るというイメージが溢れています。ロジャー氏が繰り返し示しているように、日本文化に見られる壊れたものから美しいものへの動きは、福音の力強い反映なのです。

イエスは私たちを花嫁として美しくするために砕かれました(エペソ5:25-27)。イエスは私たちが罪から癒されるために苦しみを受けられました(イザヤ53:5)。この本を読み、考えることで、イエスの良い知らせについて心が励まされ、この良い知らせをどのように他の人に伝えるかについて想像力が刺激されるでしょう。

また、この本は芸術がどのようにして福音宣教の道筋を示すことができるかについて、新たな方法で考えることを促します。音楽、絵画、彫刻、詩などの芸術表現は、私たちの心の奥底に語りかけるものであり、それゆえに福音の真理を力強く伝える大きな可能性を秘めています。壊れた世界に福音の美しい真理を伝えるために、聖書のメッセージを学ぶだけでなく、この本のアイデアを読み、考えてみてください。



## コロナ禍の巣ごもりにお勧めの一冊！

上中栄 社会委員長  
日本ホーリネス教団旗の台キリスト教会

JEA 社会委員会から教会の「巣ごもり需要」にうってつけのブックレットが発行されました。『JEA 信教の自由セミナー報告書』です。2019年度と2020年度の信教の自由セミナーの合併版でありながら、値段は例年の報告書より安い300円と、大変お買い得となっております。

19年度のセミナーのテーマは「なぜ日本でキリスト教は広まらないのか」、講師は青山学院大学の森島豊氏でした。19年度のJEA総会での講演を、覚えておられる方もあるかと思いますが、森島氏の講演は「楽しくて分かりやすい」(!)と定評がありますが、書かれた文書は専門的な論文が多いので、あまり楽しく(!?)はありません。けれども、この報告書の講演録は、セミナーの録音を起したもので、楽しさが伝わるものとなっています。

また、このセミナーのもう一つの目玉は、レスポンドントに神学生を招いたことです。ソフトボール以外で対決する機会

ない各神学校ですが、それぞれの学校の特徴がよく表れたレスポンスを聞くことができました。会場の中央聖書神学校をはじめ、聖契神学校、東京基督教大学、東京聖書学院のご協力に感謝いたします。なおこの時は、社会委員が関係する、協力が得られやすそうな神学校に依頼しましたが、「お誘いがなかった」という学校があったとことで恐縮しております。またこうした機会を設けたいと思っています。

20年のセミナーのテーマは「コロナ禍に忍び寄る『凡庸』という名の悪魔」です。講師は新進気鋭の社会委員、児玉智継氏です。コロナ禍の影響で「収録&ネット配信」という形をとったので、講師とレスポンドントも社会委員が担いました。

コロナ禍に際して教会は、教会に集まるべきかどうかとい



## 青年宣教サミット 2021

### 「コロナ禍における青年宣教」

蔦田聰毅 青年委員長  
イムマヌエル綜合伝道団

青年委員会の働きのために、お祈りとご理解、ご協力感谢您申し上げます。委員会としては昨年1月末の青年宣教サミット以来、顔を合わせる機会すらありません。7月に計画していた第2回NSDナイトも中止になりました。しかしZOOMを用いて会合を重ね、祈りと心を合わせて活動を続けてまいりました。

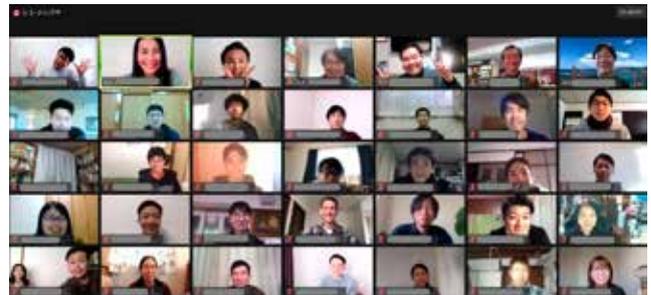
昨年9月、オンラインの宣教フォーラムで青年委員会が担当した分科会は「SNSを駆使する世代とポストコロナの青年宣教」というテーマで、良き学びと交わりの時をもちました。けれども、なお届き得なかった部分も感じていました。これを補う形で、今年1月25日の青年宣教セミナーは「コロナ禍における青年宣教」のテーマのもとに開催されました。

最初にhi-b.a.がSNS世代のど真ん中で、目的と特徴に合う形でZOOM、インスタグラム、YouTube、ヒバラジオ等を使い分けて働いている様子、その経過や途中結果、注意点などを紹介して下さいました。続いてKKGから、フォーラムに続いてコロナ禍での闘いや活動が紹介され、特に現役の学生たち自身が、動画を通じて生の声を届けて下さったのが印象的でした。苦勞を重ねて、期待をもって入学したのに、今なお制限された学校生活を余儀なくされ、不安や不自由の中にある生徒・学生たちを日々のお祈りの中にお覚え下さい。最後にイムマヌエルの青年から、「Build」の働きが紹介されました。教団内の働きであり、担当牧師もいますが、基本的に企画・広報から青年が主体的・自主的に担って運営する働きです。今回は3団体のみの発表でしたが、新型コロナウイルスの流行以前から既に取り組

まれ始めていた働きが、コロナの流行によって一気に表舞台に引きずり出されてきたという印象があります。青年宣教だけでなく、多くの教会が礼拝の動画配信を始め、ZOOMやLINEビデオ通信で諸集会を行うようになりました。新しい教会の活動形態や、機械操作など、若い姉妹方の知恵と力を必要とする場が、また彼らの活躍のチャンスが、教会の中にも広がってきているのではないのでしょうか。

今年7月に計画されていたNSDナイト～勤勞青年姉妹を対象としたプログラム～は、誠に残念ながら開催を見合わせることとなりました。ZOOM集会やセミナーなどが実によく増えてきた昨今、JEAならではのもの、JEA青年委員会にこそ求められているものは何か、その辺りを祈り合いながら探っています。

ZOOMでの委員会になってから、会合の回数は増えましたが、一回当たりの会議時間や交通費は減りましたので、今後の委員会ではオブザーバーの参加枠を少し広げて行くことも検討しています。



## JEA 社会委員会

た実際問題や、礼拝、聖餐、交わりのあり方を問う神学的な課題に直面しました。加えて、機能不全に陥ったも同然の行政府や、コロナ全体主義とも言われる社会風潮と、教会は無関係ではあり得ませんでした。そのことを、コロナ禍と信教の自由という視点から考えたのが、このセミナーです。コロナ感染が収束していない現在、これといった正解があるわけではありませんが、共に考える機会となることを願っています。

さて、「巣ごもり需要」とは言ったものの、実際には諸集会が開けないため販売機会がほとんどなく、需要は掘り起こせて(?) いません。日本宣教とコロナ禍の課題について考える材料としては、内容も価格もお手頃です。ぜひJEA事務所までお問い合わせください。



問い合わせと注文は JEA  
事務所まで。  
(03) 3295-1765  
FAX(03)3295-1933  
admin@jeanet.org

定価 300 円



## ミャンマーのための緊急祈祷会

3月31日、アジア福音同盟 (AEA) が主催する、ミャンマーを覚えての緊急オンライン祈祷会が開催されました。JEA からは理事の神戸博央師と総主事の岩上が出席しました。日本を代表して総主事がお祈りの奉仕をされました。2月1日に勃発したクーデター以降、ミャンマーは大きな混乱の中にあり、教会とクリスチャンの方々も苦難の中を通過しています。祈祷会では、ミャンマー福音同盟の先生方が現地の様子を、報告してくださいました。①ミャンマーと国のリーダーのために、②正義を求めてデモを行っているミャンマーの人々のために、③困難の中にあるミャンマーの教会、クリスチャン、教会リーダーの方々を覚えてお祈りください。



## インドのための緊急祈祷会

5月6日には、アジア福音同盟が主催するインドを覚えての緊急オンライン祈祷会が開催されました。新型コロナウイルスのインド型変異株による感染の爆発的拡大に見舞われているインドでは、医療崩壊も起こり、危機的状況にあります。世界各国からオンラインで集まり、インドのためにとりなしの祈りをささげました。インド福音同盟の先生方からも祈りの要請と現状報告がありました。特に教会のリーダーや牧師も新型コロナウイルス感染により亡くなっておられるそうです。①インド政府と医療の最前線にいる方々のために、②インドの人々のために、感染者の癒やしと回復、愛する人を失った方々のために、③インドの教会、クリスチャン、教会のリーダーのためにお祈りください。



## 第36回日本福音同盟総会

第36回 JEA 総会は、緊急事態宣言が延長される見込みを受けて、全面的にオンラインでの開催となりました。2年連続で代議員の皆さまとお会いすることができないのは、大変残念です。JEA 理事と総務局を中心に主催者側がつま恋に集まって、理事会や JEA、ATA/J、JLC 三者協力覚書調印式、JCE7 のプログラムをもちます。初めてのオンライン総会のためにお祈りください。

(Page 1 「巻頭言」から続き)

複雑になりつつある社会の変化に目を向けて、災害、環境破壊、少子高齢化、デジタル化、国際政情不安、多文化共生などの課題に教会がしっかりと向き合い、宣教の働きを新たに「はじめる」ことを意味します。そして第三に、このコロナ禍を神の摂理的な機会と受け止め、日本宣教の転換点となる新たな取り組みを「はじめる」時とする、三重の意味をもちます。

こうして「おわり」から「はじめる」ために、JCE 7においては、日本の教会間協力による宣教を聖書的原則に基づいて、根本から深く考え直してまいります。そして、神が新し

く始めようとしておられることへ共に参画していくために、教団・教派及び宣教団体の諸事情や性質、また相克を乗り越えるべく、お互いが胸襟を開いて語り合い、一つの具体的な方向性を共に見出す時としてまいります。

かつて桶狭間の戦いがその後の流れを変えた如く、今回の東海地域で開催される JCE7 において、日本の福音派のみならずキリスト教界の流れを大きく変えようとしておられる神がおられます。その神に互いに聴き、神のみこころを知り、神と共に踏み出す大切な時となることを願いながら、共に JCE7 を作り上げてまいりましょう。

## JEA 総務局から

- ◆ JEA 総務局では 2020 年度、緊急事態宣言の連続の中、在宅ワークがほとんどとなりましたが、皆さまのお祈りに支えられて、JEA の業務を滞りなく行うことが許されました。事務局が閉まっている中、電話対応をはじめ、ご不便をおかけしたと思いますが、ご協力に感謝申し上げます。
- ◆ JEA 総会はオンライン開催となりました。代議員の皆さまには、昨年同様、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。
- ◆ JEA への問い合わせ、ご要望があれば、総主事までメールにて遠慮なくご連絡ください (admin@jeanet.org)。



## 日本福音同盟

心一つにして福音の信仰のために力を合わせて戦い (ピリピ 1:27)

JEA ニュース 57 号 発行・日本福音同盟 (JEA)  
発行者：石田敏則 編集者：岩上敬人  
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC 内  
TEL : 03-3295-1765 FAX : 03-3295-1933  
email : admin@jeanet.org  
郵便振替 : 00150-8-68442 (口座名義 : JEA)